

【学校だより】

ほさかっこ

# 穂坂っ子

【学校教育目標】

心豊かで  
かしこく  
たくましい子ども

平成30年7月11日 NO.4 穂坂小学校長

## 道徳の授業が変わりました！（新学習指導要領・道徳の教科化について）

本年度から道徳の時間が教科化されました。教科書が配布され、評価も行います。評価については数値で行うのではなく、児童のよさを積極的に認めていく記述式のものとなります。

道徳教育は、本来道徳の時間だけでなく学校のすべての教育活動を通して行われるものです。では、道徳の時間はどのような授業が行われるのでしょうか。保護者の皆様も道徳の授業を受けてこられたと思いますので、少し思い出してみてください。道徳の時間で学ぶ価値内容は学習指導要領に示されていますが、道徳の授業では様々な道徳的価値について、「自分のこととして考える」「これからの生き方について考える」ことが大きなねらいとなります。たとえば、「きまりはなぜあるのか」「きまりは守らなければいけないのか」「きまりがなければどうなるのか」「きまりだから守るのか」という価値に対するさまざまな考えから、「自分はどうか」「それでよかったのか」「これからはこうしていこう」と自分の生き方に結びつく考えを持たせています。そのために現在の道徳の授業では、子どもたちが自ら考え、議論していく力が求められています。



議論というと、国語の時間や学級会の時間などで、討議したり話し合ったりすることを思い浮かべますが、道徳の時間の議論は、授業のねらいとする価値にせまるため、よりよい価値観に気づかせるために行うこととなります。教材でとりあげる主人公の葛藤の裏にある価値観の高低、他の価値との関わり、多様な価値に対する考えを発表し、「そういうことか」「その考えはすばらしいな」「自分はできなかったな」「よし、これからやってみよう」というような高まりを期待したいものです。学年の発達段階に応じて、ペアでの話し合い、グループでの話し合い、ディベート的手法による話し合いなど議論させる形態も工夫しながら、子どもたちが自由に議論できる授業づくりを進めていきたいと思えます。

シリーズ③

続・褒め言葉の効用！

さりげない一言が、あたたかい！

自発的行動は、『ちゃんと～』『しっかり～』よりも、『～しようね』『～やってね』…と、行動を期待し、奨励する言葉で！

「ちゃんとしなさい」「しっかりやりなさい」という言葉は、大人が子どもと接するときによく使う言葉です。言葉には現れませんが、圧力を伴うため禁止命令のメッセージとされています。「ちゃんとしなさい！」は、子どもには「…してはいけません！」「完全にやりなさい！」というメッセージとして伝わっています。やるからには結果も大切ですが、まずは「～してね」と奨励する言葉から始め、行動を観察しながら叱咤激励することが理想です。やる気や自発性を伸ばして行くことが、今、求められています。



もうすぐ、夏休み！（7/24～8/20）  
夏休みの計画は、お早めに…

こんな、夏休みの過ごし方は、  
いかがですか…？

蕪崎市教育委員会では、『週に一度はテレビを消して、親子で読書やふれあいを…』のスローガンのもと、『読書活動の推進と調べる学習への取組』を推奨しています。のんびりと「読書」をしながら落ち着いた時間を過ごしたり、図書館を使った「調べる学習コンクール」に向けて、親子で探求的な活動に取り組んでみたりしてはいかがでしょうか？ 夏休みだからこそ、できることにぜひ挑戦してみてください。

